

## 中国故事成語の索引付けの試み

猪熊 かおり

「故事成語」は故事をその語源とする一群の慣用語句の総称を指し、日本では故事を由来とするものと、その他のことわざや慣用語句と区別するために、故事を由来とするものを「故事成語」と呼ぶ。

本研究では、故事成語の索引データベースを電子的な形で提供するためのデータを作成することを目的とする。日本で出版された書籍に収録されている故事成語の由来と主旨に対してキーワードを付与していった。付与したキーワードをもとに分類表を作成し、どのような故事成語が書籍に収録されることが多いのかを考察する。

また、中国で出版された書籍に収録されている故事成語と、日本で出版された書籍に収録されている故事成語のうちで重複しているものの割合を調べ、結果を考察する。

データを作成するため、「故事名」「出典」「時代」「地名」「人名」「キーワード1」「キーワード2」「出典の文章」「備考」を Microsoft Excel で入力していく。

「キーワード1」は書籍の記述から、偉人の名前や状況、出典の形式等の要素を探しだし、適していると判断したものを付与する。例えば、「孔子曰く」という記述があれば、「偉人の発言」をキーワードとして付与する。また、「キーワード2」に関しては、書籍に掲載されている文章から、各故事成語の意味についての箇所を要約したのも入力している。要約を参考に「キーワード2」を付与していく。例えば、四面楚歌であれば、敵に囲まれた状況を表わすので、「状況」をキーワードとして付与する。「キーワード2」が複数付与できるものに関しては、ひとまず複数のキーワードを付与し、より多く利用される意味に適したキーワードに絞っていく。

入力作業を速やかにするため、また、データが少ないとキーワードの設定が困難であったため、キーワードに関しては思いついたものを付与し、全体を把握したうえで、基準を設けたものに変更する方針をとった。「キーワード1」「キーワード2」ともに、データ入力の過程で変更を行いながら進めていった。

完成したデータを集計すると、『論語』や各王朝の歴史書等が出典となっているもの、行動に関する故事成語が多く収録されていることがわかった。出典の違いについては、出典の書物自体が異なるものと、出典の書物は同じでも章が異なる事例の二通りが存在した。

日本の書籍と中国の書籍では、取り上げられている故事成語の重複が10%未満と低い割合であった。このことから、日本と中国では一般に普及している故事成語に差があると考えられる。

(指導教員 松本 浩一)